

掲載日	2020年2月18日(火)
掲載物	日本農業新聞
記事内容	資材ナビ 生育管理システム「agis」 小林クリエイト

生育管理システム「agis」 小林クリエイト

資材ナビ

情報システムを手掛ける小林クリエイトは、施設園芸向けの生育管理システム「agis」(エイジス)を提供する。株やトレイごとに管理用の二次元コード(QRコード)などのタグを付け、専用のリーダーでタグを読み取ると、スマホやタブレット端末で作業工程や生育記録を確認できる。種苗メーカーなどで導入し、作業の効率化や品種の間違いを防いでいる。

2019年2月から「agis」を使う種苗メーカー、エム・アンド・ピー・フローラの千葉農場は、約60坪で農家向けの花苗を中心に生産する。140品目、2800品種以上を取り扱い、サイズが違えば種類の栽培トレイを使い分ける。

スマホに表示

播種(はしゅ)から出荷まで、QRコードを印刷したタグで作業を管理する。タグはシールで、

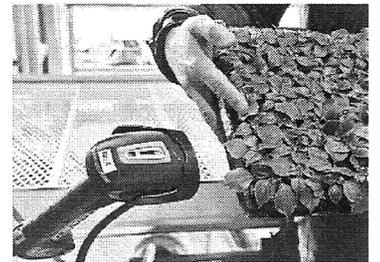


タグに印刷されたQRコードを読み取り、作業内容を確認する(千葉県酒々井町で)

正確な作業履歴把握

■ agis

タグを読み取って作物の生産管理をするシステム。施設園芸や植物工場などに向く。個人農家でも導入可能。品目や栽培環境、用途、予算に応じて、必要な機能やシステムを提案する。経営面積が大規模なほど、費用対効果を実感しやすい。問い合わせは小林クリエイトアグリ事業部、☎0545(63)8100。



トレイに貼ったタグ(同)

利用者側で印刷。種子袋やトレイに貼り付ける。専用のリーダーで読み取り、品種やトレイの種類などの内容は、スマホやタブレット端末に表示する。

播種は、品種名とトレイが合っているかを確認してから行う。苗の栽培管理では、作業予定、進捗(しんちよく)、結果を端末に表示。作業者は表示された内容に沿って作業を進め、完了したら端末の完了を押して記録する。予定していた作業が終わっていないトレイがあると、システムが通知するためミスを防ぐことができる。

栽培現場から作業記録を送信できるため、導入前は事務所に

戻って手作業で入力していた手間がなくなった。以前は見間違えによる入力の違いが課題だった。内田定康農場長は「花の品種は似た名前が多く、間違ってもあったが、導入後はなくなった」と効果を実感する。作業時間も計算できるため、「作業効率の見直しや、翌年のスケジューリングを計画するのにも役立つ」と満足する。

ミスなく出荷

出荷前には、タグで苗と送付先の情報確かめる。これまで人の目で3段階の確認をしていたが、手間が省け、精度も高まった。内田農場長は、精神的な負担も減ったと分析。「花が咲かないと正しい品種かどうか分からないため、出荷後も間違っていないか不安になることがあった。『agis』なら出荷時に確認でき、安心できる」と話す。スマホが使える人なら、操作は難しくないといい。今後は出荷後もタグで追跡し、トレーサビリティ(生産・流通履歴を追跡する仕組み)として使えるようになることを期待している。

無断複写転載を禁じます。